

II 大学決議機関

教授会

1. 構成員

[学 長] 井部俊子

[教 授] 伊藤和弘、菱田治子、廣瀬清人、中山和弘、菱沼典子、松谷美和子、及川郁子、堀内成子、森 明子、林 直子、亀井智子、萱間真美、麻原きよみ、田代順子、柳井晴夫、垣添忠生、宮坂勝之、山田雅子、福井次矢、佐藤エキ子、上田憲明

[准教授] 菊田文夫、鶴若麻理、大久保暢子、佐居由美、平林優子（2011年10月～2012年2月休職）、小野智美、片岡弥恵子（4月～9月サバティカルリープ）、江藤宏美、宇都宮明美、飯岡由紀子、梶井文子、大森純子、有森直子、高橋恵子

[構成員以外の出席者] 山口喜義事務局長

[議事録確認者] 田代順子教授、小野智美准教授

[書 記] 教務部 高橋昌子

2. 役割・職務（学則第40条）

教授会は次の事項を審議する。

- 1) 学則に関する事項
- 2) 教育課程に関する事項
- 3) 研究および教授に関する事項
- 4) 学生の入学、退学、転入学、休学、編入学、再入学、卒業および賞罰に関する事項
- 5) その他学長が諮問する事項

3. 活動内容

定例会（11回）、臨時会（5回）を開催し、上記の審議事項の他に、以下について話し合いを行った。

- 1) 東日本大震災およびそれに関連した事故により被災した福島県の支援を行うプロジェクト「きぼうときずな」を立ちあげ、長期にわたる支援を行うことを決定した。また、それに伴う教員、大学院生のボランティア活動に対する取り決めを決定した。
- 2) 学部カリキュラムにおいて、保健師国家試験受験資格取得に関する科目について、「体育Ⅰ・Ⅱ」2単位、「国際看護学」1単位を必修科目とすることを決定した。

3) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正により、助産師課程の単位数が23単位から28単位に増加したことに伴い、ウィメンズヘルス・助産学専攻の教育課程において「助産学特論Ⅵ」2単位、「助産学演習Ⅵ」2単位、計4単位を開講し、助産師国家試験受験資格取得希望者は、60単位を履修することを決定した。

4) イリノイ大学との学術交流協定締結を決定した。

5) 学長任期満了に伴い教授会からの次期学長推薦委員を決定した。

6) 学部長任期満了に伴い、選挙管理委員会を立ち上げ、選挙を実施し、次期学部長を決定した。

7) 卒業式に、日本私立看護系大学協会会長表彰、学長特別表彰を行うことを決定した。

8) 下記規程の改訂を行った。

広報委員会規程、ウパウパ奨学金規程、認定看護師教育課程規則改正、危機管理規程

4. 課題

1) 新入生の学生数増加に伴い、教室等の使用や整備上の問題点が挙げられている。教室等の整備について、徐々にではあるが視聴覚機器の整備や、机の増設等を実施したが、改善されたとは言い難い状況である。さらに、次年度は75名の1年生が入学予定であるため、学部生全体で8名の増員となり、対応が急がれる。

2) 成人看護学（慢性）の教授人事が継続審議となっていたが、今年度も決定には至らなかった。次年度も現行の体制で、教授人事を継続することになった。

3) 看護管理学（学部）の教授人事について、今年度は決定に至らず、継続審議となった。

研究科委員会

1. 構成員

[委員長] 菱沼典子

[委 員] 伊藤和弘、廣瀬清人、中山和弘、柳井晴夫、垣添忠生、宮坂勝之、松谷美和子、井部俊子、田代順子、及川郁子、林 直子、亀井智子、堀内成子、森明子、萱間真美、麻原きよみ、山田雅子、

飯岡由紀子、宇都宮明美、有森直子、江藤宏美、
片岡弥恵子(9月～1月サバティカルリープ)、
[書 記] 教務課 森川雪絵

2. 役割・職務

大学院看護学研究科の学籍、カリキュラム、カリキュラム運営、入試、論文審査、最終試験、学位授与等、研究科にかかわる一切の件を企画、審議、決定し、研究科の円滑な運営をはかり、大学院教育の質の向上を目指す。

3. 活動内容

定例委員会(11回)、臨時委員会(10回)を開催し、上記2の職務を遂行した。なお、学籍、入試、学位授与に関してはp29～p31を参照のこと。以下、本年度の特徴的な活動について記す。

1) ウィメンズヘルス・助産学専攻のカリキュラム改訂

保健師助産師看護師養成所指定規則の改定に伴うカリキュラム改訂を、東京都を通して文部科学省に申請した。

2) 文部科学省の専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業に応募し、採択された(詳細はp35参照)。これに伴い次年度特別講義に新科目を設置することになった。

3) 厚生労働省による特定看護師(仮称)養成調査試行事業に、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、周麻酔看護学の各上級実践コースが参加した。次年度の同事業への申請を行った。

4) その他

博士後期課程で留学生が初めて学位を取得し、また、看護情報学で初めての博士を輩出した。新設の周麻酔期看護学で1名が修了した。

4. 課題

1) 研究科で学修可能なコースが多様になっており、また、学生も多様になっており、専攻のあり方を含めて一度整理する必要がある。本年度行われた将来構想委員会の大学院に関する検討会での論議も含めて、次年度全学で検討すべきと考えている。

2) 特定看護師(仮称)の養成試行では、実習施設の条件を整えるのに困難を極めた領域もあり、方向性が定まらないことも相まって、試行錯誤が続いている。

3) 次年度修士課程上級実践コースの学生に対し、チームビルディング力強化プログラムを導入する。プログラムの円滑な進行為課題である。